

チェルノブイリ原発事故

～あの日の空と放射能と涙～
～夢か現実か、実像か虚像か～

監督 山川皓平



第1章 チェルノブイリで何が

a) チェルノブイリ原発事故

ア) 4月26日の早朝、ソ連チェルノブイリにて甚大な
事故発生

イ) 原子力発電所事故の中でも最大の事故

I) 事故発生場所は4号炉、3号炉と4号炉はセット

II) 事故は屋根が崩壊、原子炉で大きな破壊



大量の放射能漏出



b) 放射能汚染の拡散

ア) 27日から28日にかけて北欧に拡散

■ (フィンランドやスウェーデン)



大変強力な放射能観測

放射能の種類、ヨウ素、セシウムなど

イ) セシウムは原子炉の炉心が高温、強力な破壊が発生



外に漏出



- ウ) 1000キロ以上の距離のスウェーデンなども放射能観測

- I) 普段の100倍の線量

- II) 日本だと防災体制の準備態勢に

- 日本では8キロとか10キロ程度



日本の基準が安易

- エ) ヨウ素の恐怖

- I) ヨウ素は甲状腺に蓄積

- II) 甲状腺のガンの機能障害の元

- III) 放射性でないヨウ素は本来甲状腺にとっての栄養

-



- オ) 子供への影響
- I) 地面からの距離
- II) 子供のデモ発生西ドイツで
- ↓
- 遊び場の閉鎖により



■ 第2章 原発事故の考察

■ a) なぜ事故が発生？

■ ア) TMI2号炉事故

■ I) アメリカのスリーマイル島の事故

■ II) 給水ポンプの停止、補助給水系弁の閉鎖



2次冷却水が完全に停止

また、加圧器逃し弁の開放固着



■ 運転員の確認不足、2時間18分1次冷却水損失



- イ) ビジエイ 5 号炉の事故
 - I) フランスの原子力発電所
 - II) フル運転中、制御電流のトラブル
 - III) 直流制御電流用の整流器の故障



予備バッテリーに自動変更、警告



運転員は無視、運転継続

- フランスの原発事故で最悪で深刻な事故



- ウ) チェルノブイリ原発の事故

- I) 主電源損失時の緊急用電源確保の実験時に発生

- II) 出力上昇が継続、炉心が爆発



- さらに、数秒後、第2の巨大な爆発
(爆発により、燃料片は炉外まで飛散)



- 水素爆発が発生の可能性も



- エ) 事故の共通点

- I) 事故は筋書き以外で発生

- II) 事故は連鎖を継発

- III) 事故は日常で発生

- IV) 事故時には人間が決定的役割を

- V) 事故には背景が存在

-

-



-

日本も可能性は十分



■第3章 ポスト・チェルノブイリに向けて

■a) 巨大技術と人間の間

- ア) 設計、建設上の欠落や不十分というより



■ 人間の技術という面に問題が

■ 人間は間違い、そして考察



■ 次へ進歩



- b) ポストチェルノブイリをどう活用
- ア) 放射能への不安と反原発運動
 - I) 数多くの電話
 - II) メディアの報道
- ↓
- 直接自分に影響、被害の有無
- これは原発への考えでは×
- ↓
- しかし、原発を周知のきっかけ



- C) エコロジーのインターナショナル
- ア) 放射能に国境は不在
- イ) 他国の問題も自国の問題として考察不可避



旅行、食べ物、衣類など

- d) 各国政府の見直し
- ア) 反原発運動
- I) デモにより多くの逮捕者や負傷者
- II) 反原発の署名3000名の賛同



日本でも可能性大、解決策模索必要



■ 目的

- チェルノブイリ事故から、国民への警告

■ 結論

- チェルノブイリ事故は終わりの始まり、
- そこからの対応策はこれからも考察必須

